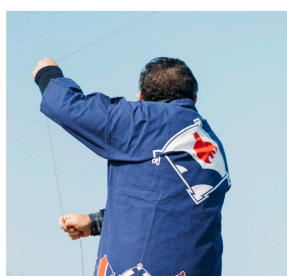


長崎市フォトフェスティバル2025

暮らしのそばの世界を見つけよう 優秀作品展示イベントを開催中

開催期間 11月27日(木)——12月26日(金)

長崎市の観光マスターブランドスローガンである「暮らしのそばに、ほら世界」をテーマにしたフォトフェスティバルで、977点から選ばれた15作品を展示中。坂道や港の光、路面電車、教会と寺院——日常にそっと息づく“小さな世界”を映した一枚を、ぜひご覧ください。



Let's put on stickers!

あなたのお気に入り写真を見つけて、
一緒に長崎を盛り上げよう!

優秀作品の中からあなたが長崎市らしいと思う写真の横にシールを張って、
あなたの好きな長崎市の写真に投票しよう。



「Discover Japan」
統括編集長
高橋俊宏さん

「暮らしのそばに、ほら世界。」が鮮やかに息づく作品ばかりで、心から感動しました。くんちのワンシーン、祭りにかける人々の緊張感、夕暮れの眼鏡橋に映る空——どれもが、長崎という土地の匂いや温度まで伝わってくるようで、たった一枚の写真から「今すぐ長崎に行きたい」と強く思わせる力強さと優しさに満ちた力作揃いでした。



季刊「楽(ra-ku)」
発行人
糸屋悦子さん

今回の審査では撮影や加工の技術ではなく「人物が写っているか、または人の気配を感じるか」を基準としました。単なる風景の記録ではなく、その場所で生活している人や、そこに存在する“時間の温度”をどう切り取るかによって、見る人の心を動かす力を持っています。人の存在を感じる作品には温かさや物語性があり、心を動かされました。



長崎市まち歩きの人達
統括編集長
山口広助さん

長崎のフォトコンテストは加工しなくても補正しなくてもそのまま絵になるし構図が完成する。こういったところが長崎の強みといっている。足さなくていいし、減らさなくていい。そう!ありのままの姿こそが唯一無二の長崎。歴史や文化そして多くの人々が交差した街。そこが長崎!

審査委員